犯罪被害者支援に大切なもの

大分県立看護科学大学准教授　臨床心理士　**関根　剛**

はじめに

犯罪被害者支援に大切なものは3つのＳ～System（法制度や条例）、Skill（支援者の能力や技術）、Spirit（魂や信念）～と考えています。それは、どれが欠けても、被害者への支援は実効性がなくなったり、薄っぺらくなったりしてしまうからです。この中でSkillが相談員や支援員の人材育成に最も密接なものにあたります。

筆者は1998年から2020年まで、内閣府のモデル案やＤＶＤの作成、全国共通のカリキュラム、テキスト作りなど、ネットワークの「研修」や「人材育成」に関わる委員会にずっと属する機会を得ました。その経験を通じて、ネットワークの人材育成について、振り返りながら、人材育成の「これから」についても少し考えてみたいと思います。

Ⅰ．人材育成は日本の被害者支援の質を維持する要

ネットワークは成立した時から「人材育成」の課題を持ち続けています。それは、法律も、組織も、社会での知名度もない頃。事務局の場所にも苦労して、転々としていたセンターも少なくなった頃、頼れるのは「人材」だけと言っても良い状況でした。そのため、「人材」を育成するため、「仲間」を増やすために、研修会を開きテキストを作ってきました。それこそ最初は全国の研修会でさえ30人も入らないような小さな部屋で「自分たちが被害者のために何をしたら良いか」から始まり、「どうしたら制度や研修を充実できるか」、自分のセンターだけではなく「全国いつでもどこでも同じ支援を実現させるためにどうしたらよいか」を考え実現してきました。

今では信じられないかもしれませんが、ごく初期のころ、理事長以下、箱根で一泊の合宿をしたことがあります。そこでセンター間の交流を深め、新しいテキスト作りの会議を行いました。それが、2002年に作られた最初のテキスト「被害者支援ボランティアのための研修マニュアル」につながりました。その後、2008年「犯罪被害者支援必携」、「初級マニュアル」、2009年の内閣府による「民間被害者支援団体における研修カリキュラム・モデル案」に基づいて、2011年「初級・中級テキスト」、2012年「上級テキスト」が作成されました。2018年には被害者支援テキスト【知識編】【実践編】が作られています。2010年までは各センターが完全にバラバラであったカリキュラムでしたが、現在ではほぼ全国共通の考え方やスキルをもつようになったのは、これらテキストの存在が大きかったと考えています。

また、研修会は2008年までは、秋に開催される現在と同じ形式の全国研修会（ネットワーク主催）、春に東京以外で開催される全国研修会（センター主催）の形で行われてきました。しかし、

2008年度からは春の全国研修会に代わって、現在のような年2回のブロックでの研修会が開催されるようになりました。目的は、できるだけ多くの参加が可能となること、相談員養成の研修機能を担うことを目指したものでした。これによって、ブロックの一体感やブロックでの講師をする機会を通じて、次世代の人材育成にもつなげられたと思います。また、コーディネーター研修は上級研修など紆余曲折を経て、「NNVS 認定コーディネーター」にたどりつきました。

このようにネットワークが「人材育成」に力を入れ続けなくてはならない理由は、どんどん変化する新しい法制度や体制にマッチした新しい知識やスキルをまとめて伝えなければならないこと、全国に設立される新しい支援センターのための新しい人材育成を支援するためです。けれど、それだけではありません。相談員・支援員の皆さんは、「スキルをもった人材」＝高度な技術者集団です。ですから、引越や介護などの諸事情で引退する人のあとを、常に技術力のある「人材」で埋め続けなくてはなりません。

その意味で、「人材育成」は終わりのない仕事であり、「人材育成」は被害者支援の Skill 維持の要であり、ひいては日本の被害者支援の質を維持する要であると考えています。

Ⅱ．３つの世代

ところで、最近、私は支援者には3つの世代があったのではないかと考えています。第一世代は日本に被害者支援の仕組みがなかった時代に被害者支援を導入した「開拓者」世代です。困難は大きいけれど何を創ったかの成果を感じやすかったでしょう。第二世代は導入した被害者支援を充実させた「建設者」世代です。予算の増額、テキストや研修の充実など目に見える成長という成果を感じ取れるものだったでしょう。そして、多くの方たちにあてはまる現在、第三世代はそれを如何に次世代に引き継ぐかという「継承者」世代です。拡大から維持・縮小の中で次にスキルやスピリットを次に伝えるという困難な課題に直面しています。一番の困難さは、やれて当たり前、前の世代のような目に見える成果というものを感じにくいことではないでしょうか。けれど、次に「継承」するということは前の世代同様に困難で、「すごい」仕事をしているのだということを、今の被害者支援を支えている皆さん自身に知ってほしいと思います。

2020年は不幸なことにコロナの影響で様々なイベントや研修が中止になりました。けれど、そのおかげで、遠隔会議や遠隔講義という可能性も見えてきました。これは地方のセンターの研修コスト（交通費、時間、手間）削減には役立つでしょうし、Ｅラーニングなど新しい研修方法につながるかもしれません。これからの「人材育成」は、今までのスキルをブラッシュアップさせながら、より多くの人に効果的・効率的にスキルやスピリットを伝えていくという課題をかかえています。

俗に「初代が創り、二代目が傾け、三代目がつぶす」という言葉があります。けれど、逆に考えると三代目が次につなげれば、その後は長く安定すると言えるのではないでしょうか。第四世代、第五世代の時代になった時、「第三世代、すげー」と言われる時がくると思います。いえ、言わせましょう。是非。